

令和八年二月号  
 《第百五十九号》  
**しるへび**  
 宗教法人岩國白蛇神社

〒740-0017  
 今津町六丁目4-2  
 ☎ 30-3333

弥生の祭典・行事案内



【月次祭】九時半  
 八日(日)  
 二十日(金)  
 春分の日

【昭和天皇御製】(第一二四代)  
 な「福井県の復興」  
 地震にゆられ火に焼かれても越の  
 民よく堪えてここにたちなほりたり  
 「紀州白浜の宿にて」  
 雨にけぶる神島を見て紀伊の国の  
 生みし南方熊楠を思ふ  
 「日本遺族会創立十五周年に際し」  
 年あまたへにけるけふものこされし  
 うからおもへばむねせまりくる  
 「日本傷痍軍人会創立十周年記念全国  
 大会に際し」  
 国守ると身をきざつつけし人びとの上  
 をし思ふ朝に夕に  
 (昭和三十七年)

【節分祭】二月三日



午後三時より十八名の参列の中、節分祭が斎行されました。神事の後に宮司により四方に「鬼は外、福は内」の大声により豆撒き神事が行はれ、続いて総代長と巳年生まれの方々により、境内におよそ三十名の参詣者に豆まきがあり大いに賑はいました。

【紀元祭】二月十一日



十七名の参列を得て、始めに国歌斉唱と榎原神宮遙拝をし、祭典が斎行されました。今年は小学生の舞姫二人による奉納舞と光洋流吟道五名の吟詠が奉納されました。そして、参列者全員で「紀元節の歌」を四番まで斉唱しました。宮司は挨拶で、この歌がテレビやラジオから聞こえてくるやうになれば、真の日本回帰と云へるのではないかと述べました。

【御製碑除幕式】二月十一日 十時半



昨年の令和七年の巳年は昭和改元百年、戦後八十年、そして、日露戦争の勝利から百二十年にあたる節目の年でした。その記念として、当社崇敬会から昭和天皇御製碑の寄進が行はれました。

神社の境内に相応しい立派な記念碑の建立に心より感謝を申しあげます。御製碑建立の碑文は次頁に掲載してあります。

「身はいかにもなるともいくさどづめけり たゞたふれゆく民をおもひて」

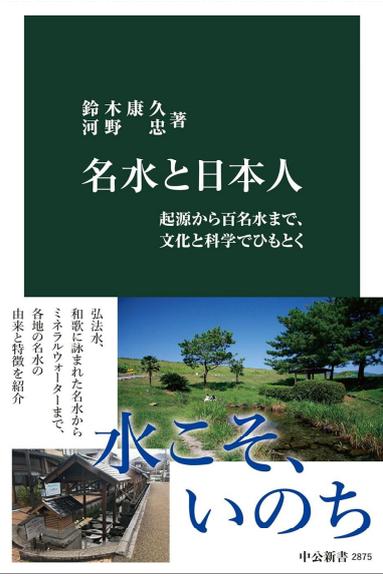
【推薦図書】

『名水と日本人』 中公新書

鈴木康久・河野忠著 千五百五十円＋税

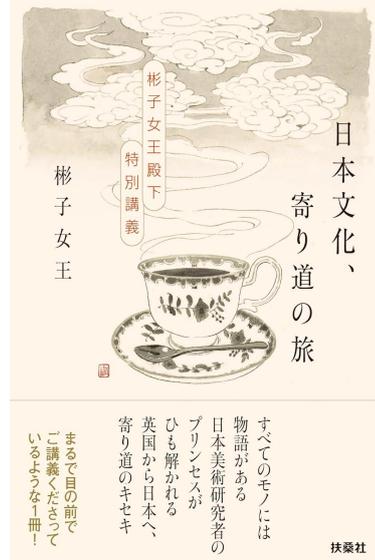
「・・・地下にある見えない水が地上へと現れたときに、地域の伝承と一体化し、様々な物語を語りはじめ。アリストテレスなどの古代ギリシャの哲学者が世界を構成すると考えた「火」「空気(風)」「水」「土」の四元素の中でも、このように多種多様な伝承を持つのは「水」だけである。その理由は、「水」が生命の根源となるからである。これら名水について、多くの方々を知ってもらいたい。そのためには、わかりやすく分類し、その属性ごとに特性を明らかにすることが大切となる。この意図を

持って執筆したのが本書である。・・・  
(略) (あとがきより)



### 『日本文化、寄り道の旅』

「・・・今の私のライフワークとも言うべき、日本文化を未来に伝えるという活動に行きついたのも、英国に壮大な寄り道をし、いろいろなお会いと出来事があった結果、大英博物館にたどり着いて、ウィリアム・アンダーソンという日本絵画蒐集家に出会ったことがきっかけである。日本でスコットランド史の研究を続けていたら、恐らくたどり着くことはなかったと思うし、遑れば父の『お前はオックスフォードに行くんだ』



の呪文がなかったら、絶対にたどり着くことはなかった道であろう。・・・」  
(おわりから)

### 本居宣長

#### 『直毘霊』を読む(十一)

さて、其の聖人どもの作り構へて定めおきつることをなも、道とはいふなる。かかれば、漢国にして道といふ物も、其の旨を極むれば、ただ人の国を奪はむがためと、人に奪はるまじき構へとの、二つには過ぎずなもある。

(続く)

#### 【現代語訳】

そして、その聖人たちが意識的につくりあげて、決めておいたことを「道」といふのも、その趣旨を徹底させると、ただ他人の国を奪ふためと、他人に奪はれないやうにしようといふ姿勢との二つにすぎないのである。

#### 御製碑の副碑(説明文)

令和七年は昭和改元から百年に、又、戦後(大東亜戦争終戦)八十年の節目の年にあたる。この八十年間わが国は戦争に巻き込まれることなく平和が維持されてきた。

しかし、昨今の世界情勢をみるに各地で紛争が多発し、わが国にも戦禍の危機が迫りつつある。

今から百二十年前(明治三十八年)、わが国は日露戦争に勝利し、人類の歴史を大きく転換させ、アジア諸国に独立の気



土台は当社の花崗岩で、碑は凝灰岩。土台の下は那智黒石で、周りは伊勢ごろた石。

概を与えることになった。此の戦争の開戦決定にあたり明治天皇は「よもの海みなはらからと思ふ世になど波風のたさわぐらむ」とお詠みになり、平和希求の大御心を示された。  
この御製は昭和天皇によっても先の大戦決定の御前会議において二度奉唱された。  
此度昭和百年・戦後八十年にあたり、昭和天皇の恒久平和を切望される御精神を永遠に伝えたく、ここに昭和二十年にお詠みになられた御製の碑を建立するものである。  
令和七年乙巳(二〇二五年)  
岩園白蛇神社崇敬会